

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ミゾゴイ

Gorsachius goisagi (Temminck, 1836)

川上和人（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：川上和人，2026. ミゾゴイ．環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 724-729.

Citation: Kawakami, K., 2026. *Gorsachius goisagi* (Temminck, 1836). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 724-729.

ミゾゴイ

Gorsachius goisagi (Temminck, 1836)

カテゴリー判定結果 準絶滅危惧 (NT)

②

基準 A: —	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: VU 未満	基準 E: —
---------	---------	---------	-------------	---------

生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。
具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。

②生息条件が悪化している。

【判断理由】

太陽光発電施設の増加や竹林の拡大により、全国的に好適な生息地が減少している。

評価分科会： 鳥類分科会

概要

ミゾゴイは、基本的に日本の本州、九州、四国および周辺島嶼の温帯域でのみ繁殖する渡り鳥で、非繁殖期にはフィリピンを中心とした東南アジアで越冬する。20 世紀後半に個体数が激減しており、越冬地の森林減少、繁殖地での捕食者の増加や繁殖適地の減少などが原因と考えられている。都市近郊林ではハシブトガラスやオオタカが、伊豆諸島では外来種のイタチなどが捕食者となっていると考えられる。里山を主な繁殖地としているため、人為的攪乱を受けやすい。

基礎情報

【形態】

全長約 50 cm、翼長約 25～30 cm、尾長約 9～12 cm。体の上面は赤褐色で、腹側はクリーム色に黒色の縦斑が入る。若鳥では、体の上面が暗褐色で、全体に黒い小班が入る。他のサギ類に比べて嘴が短い。近縁のズグロミゾゴイでは、成鳥では頭部に黒い冠羽があり、また初列風切羽と小翼羽、大雨覆の先端に明瞭な白斑があるが、ミゾゴイでは冠羽がなく、白斑部が比較的小さく余り目立たない。

【生活史】

渡りが早い個体は 3 月後半から繁殖地で観察されるようになるが、渡りの中継地と考えられる場所では 6 月頃まで散発的に記録されるため、個体により移動時期に差があると考えられる。繁殖地に飛来した個体は、営巣地近辺で数日から 1 週間ほど夜間に鳴き、造巣、産卵を行い、順調なら約 2 ヶ月程度で雛が巣立つ。巣は地上高 5-15 m ほどの枝に作り、3-5 卵を産む。9 月から 11 月頃に越冬地に移動する。繁殖期の夜間によく鳴くため夜行性とされることもあるが、繁殖地での採食や雛への給餌は基本的に日中に行う。ミミズやサワガニ、陸産貝類、地上性昆虫などを主な食物としている。

【生息環境】

標高 1,000 m 以下の平地から低山の広葉樹林および針広混交林を中心に繁殖している。営巣にはケヤキやコナラ、サクラなどの広葉樹を利用することが多く、巣の下に広く空間が維持されている場所を好む。過去には、営巣には針葉樹を好むとされる文献もあったが、最近は針葉樹での営巣例は少ない。住宅地内に残された局所的な森林で営巣したり、開けた農耕地で採食したりすることもある。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林、田地・畑地、耕作放棄地 【陸域_平地部】森林、田地・畑地、耕作放棄地、市街緑地
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域、(3) 都市地域

【分布域】

本州、九州、四国、伊豆諸島など、基本的に日本の温帯域でのみ繁殖するが、台湾及び済州島でも各 1 例ずつ繁殖記録がある。フィリピンを中心に沖縄や台湾、中国南部などで越冬する。サハリンやパラオ諸島からの記録もある。国内では北海道でも観察記録はあるが、繁殖は確認されていない。

現在の生息状況

【分布域の現況】

分布域の各地で繁殖しているが、その密度は以前に比べて低下している。山梨県の久那土や伊豆諸島では、1970 年以前には多数が繁殖していたが、最近はほとんど記録されなくなっている。

【生息地の現況】

ミゾゴイは低地の広葉樹林や針広混交林を好み、人工植林地はあまり営巣に利用しない。国内では 20 世紀後半に人工林面積が増加し、天然林面積が減少傾向にあったことから、この時期には繁殖地が減少した可能性がある。21 世紀に入り国内の天然林面積は増加傾向にあるが、太陽光発電施設や竹林の拡大などのためミゾゴイが好む低地林は減少している可能性がある。主な越冬地と考えられるフィリピンの森林割合は 20 世紀後半に激減したが、21 世紀には減少は止まっている。

【個体数の現況】

ミゾゴイは 20 世紀後半に日本各地で観察記録が少なくなっており、全国的に個体数が減っている。保護収容個体数の推移を調べた結果から 1960 年代以後に継続的に減少していると考えられている。近年は急激な減少は落ち着いていると考えられるが、減少傾向が止まった証拠はない。過去には個体数 1,000 羽以下とされることがあったが、これは定量的な調査に基づくものではなく、過小評価されているものと考えられる。愛知県三河地域での繁殖期の 100 km²を対象とした調査では 23 箇所から鳴き声が見つかり、以前に考えられていたよりは個体群密度は高い可能性がある。このため、国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストでは近年の成熟個体数を 5,000-9,999 個体と推定している。本種は主に森林内に単独で生活し、繁殖期の限られた期間の日の出前および日没後にのみ鳴くため、野外で検出されづらいことが過小評価の原因となっているものと考えられる。

存続を脅かす要因

ミゾゴイが激減した 20 世紀後半は他の夏鳥が減少した時期と重なっており、越冬地における森林面積の減少が個体数減少の主要因の可能性がある。ミゾゴイの主な越冬地と考えられているフィリピンの森林率は 1950 年頃には約 50%だったが、1990 年頃には約 20%になっている。ミゾゴイが繁殖する低山は開発の影響を受けやすいため、営巣環境の減少も課題の一つとなっている。特に近年は各地での太陽光発電施設の設置や竹林の拡大等により、営巣環境が減少しているものと考えられる。都市近郊ではハシブトガラスやオオタカの捕食により、繁殖成功率の低下や死亡率の上昇が生じている可能性がある。三宅島などの島嶼では外来種のイタチやノネコによる捕食が減少要因の一つと考えられる。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，捕食（外来種による），捕食（在来種による）
	（現在）	森林伐採，捕食（外来種による），捕食（在来種による）

特記事項

基本的に日本国内のみで繁殖する種であり、その生息状況は世界的に注目されている。過去には個体数が 1,000 個体以下とされていたが、最近の IUCN レッドリストでは成熟個体数を 5,000-9,999 個体と見積もっている。ただし、これはあくまでも過去の推定が過小評価だったと考えられているだけで、個体数の増加を意味しているわけではないことに注意が必要である。また全国で 10,000 個体以下というのは極めて低密度な状況と認識すべきで

ある。近年は横浜市繁殖センターにおいて飼育下繁殖に成功している。最近は以前に比べて観察事例が増えてきているが、これは個体数の増加によるものではなく観察者や観察努力が増えたことによると考えられる。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	VU
第4次 2019:	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	VU
第4次 2018:	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	VU
第4次 2017:	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	VU
第4次 2015:	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	VU
第4次:	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	VU
第3次:	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	EN
第2次:	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	NT
第1次:	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【北海道】情報不足(Dd), 【青森県】最重要希少野生生物(A ランク), 【岩手県】絶滅危惧Ⅰ類, 【宮城県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【秋田県】情報不足(DD), 【山形県】情報不足(DD), 【福島県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【茨城県】情報不足①注目種, 【栃木県】絶滅危惧Ⅰ類(A ランク), 【群馬県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【埼玉県】絶滅危惧ⅠB類(EN)(繁), 【千葉県】最重要保護生物(A), 【東京都（本土部）】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【東京都（北多摩）】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【東京都（南多摩）】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【東京都（西多摩）】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【東京都（伊豆諸島）】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【神奈川県】絶滅危惧Ⅰ類(繁殖期), 【新潟県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【富山県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【石川県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【福井県】県域絶滅危惧Ⅰ類, 【山梨県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【長野県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【岐阜県】絶滅危惧Ⅱ類, 【静岡県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【愛知県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)(繁殖), 準絶滅危惧(NT)(通過), 【三重県】情報不足(DD), 【滋賀県】絶滅危機増大種, 【京都府】絶滅寸前種, 【大阪府】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【兵庫県】A ランク, 【奈良県】絶滅危惧種, 【和歌山県】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【鳥取県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【島根県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【岡山県】絶滅危惧Ⅰ類, 【広島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【山口県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【徳島県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【香川県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【愛媛県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【高知県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【福岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【佐賀県】絶滅危惧Ⅱ類種, 【長崎県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【熊本県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【大分県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【宮崎県】絶滅危惧ⅠB類(EN-r), 【鹿児島県】絶滅危惧Ⅰ類, 【沖縄県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

参考文献

- 浜口寛・石川正道・小西恭子・永井敏和・大鹿裕幸・川上和人, 2014. 愛知県西三河地域におけるミゾゴイ *Gorsachius goisagi* の生息環境モデル. 日本鳥学会誌, 63(1): 33-41.
- Higashide, D., T. Kuriyama, S. Takagi, H. Numata and M. Yokoyama, 2023. The Behaviour of Japanese Night Heron *Gorsachius goisagi* on Awaji Island, Japan, Recorded by Camera Traps. Ornithological Science, 22: 161-168.
- 日向富士雄, 1949. ミゾゴイの観察. 野鳥, 14(9): 19-22.
- Hongshik, O., K. Youngho and K. Namkyu, 2010. First Breeding Record of Japanese Night Heron *Gorsachius goisagi* in Korea. Ornithological Science, 9: 131-134.
- 石川正道・浜口寛・小西恭子・藤田一作・大鹿裕幸・川上和人, 2012. 愛知県西三河地域におけるミゾゴイ *Gorsachius goisagi* の営巣樹種と立地環境. 日本鳥学会誌, 61: 289-295.
- 川口孫治郎, 1937. 日本鳥類生態学資料. 巢林書房, 東京.
- Kawakami, K. and H. Higuchi, 2003. Population trend estimation of three threatened bird species in Japanese rural forests: the Japanese Night Heron *Gorsachius goisagi*, Goshawk *Accipiter gentilis* and Grey-faced Buzzard *Butastur indicus*. J. Yamashina Inst. Ornithological Science, 35: 19-29.
- Kawakami, K., H. Uchida and M. Fujita, 2005. Diet of the Japanese Night Heron *Gorsachius goisagi* in Japan. Ornithological Science, 4: 173-177.
- 川上和人, 2010. ミゾゴイ. 日本野生生物保護学会 (編), 野生動物保護の辞典, pp. 511-513. 朝倉書店, 東京.
- 川名国男, 2010. ミゾゴイの繁殖期における雛への給餌活動. 山階鳥類学雑誌, 41: 207-211.
- 川名国男, 2012. ミゾゴイ その生態と習性. ジャパンプリント, 東京.
- 野村博, 2008. 辰巳ダムにおけるミゾゴイ営巣調査. ダム技術, (260): 56-63.
- 大谷力・慶野友和・麻生海斗, 2024. 繁殖期に観察されたミゾゴイ *Gorsachius goisagi* の交尾と求愛行動. 日本鳥学会誌, 73: 107-112.
- 白井あやか・松原正佳・白石利郎・恒川直樹・金澤朋子, 2025. 飼育下ミゾゴイ *Gorsachius goisagi* の造巣期から巣内育雛期における繁殖行動. 日本鳥学会誌, 74: 71-78.
- 白石利郎, 2020. ミゾゴイの飼育と繁殖. どうぶつと動物園, 72: 72-77.
- 鈴木茂也・天白牧夫, 2019. 三浦半島におけるミゾゴイの営巣密度からみた繁殖個体数の考察. 横須賀市博物館研究報告 自然科学, 66: 11-16.
- 高橋雅雄, 2015. 佐渡島におけるミゾゴイの営巣初記録と生息状況. Strix, 31: 209-213.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Gorsachius goisagi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition.

Gorsachius goisagi is listed as NT under criteria ②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】 Forest, Farmland, Abandoned farmland 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Farmland, Abandoned farmland, Urban green area
Threat types:	Logging and wood harvesting, Predation (by alien species), Predation (by native species)
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



執筆者:	川上和人（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）
Author:	Kazuto Kawakami

公表年月：2026 年 3 月